子育てしやすい街をめざして、日々活動中です。

あかちゃん連れで行ける場所を、もっと街中に増やしたい！

こまちカフェの床はメープル材。「ハイハイできる床、これだけは妥協しませんでした」と森さん。子連れで入りやすい雰囲気づくりは、スタッフの工夫で日々整えられています。

一隅では、小物作家さんに販売スペースをレンタルする「haco＋」という取り組みも。作家になるための講座も開催します。

カフェの厨房に入るのもまた、育児中の女性スタッフだったり、地域のボランティアのひとだったり。ときにはおじいちゃんのボランティア参加もあったりして、多様なひとがこの場を支えています。

「NPO法人こまちぷらす」代表の森祐美子さん。

「行政から財政的支援を受けていないので、この場所の維持はなかなか大変ではあります」

そう言って笑う森さんですが、毎日カフェを開き、別室では子育て世代向けの講座を連日開催。有給のスタッフやボランティア、イベントを開催する「パートナー」と呼ぶ共同運営のひとたちをとりまとめ、一定のクオリティを保っていくのは、確かに骨の折れる仕事です。

2012年に森さんと数人の仲間ではじめた「こまちぷらす」は、育児ノイローゼ寸前だった森さんの、偶然の出会いにヒントがありました。

「自動車メーカーで海外営業をしていたわたしが、育児休暇中は家に子どもとふたりきり。誰とも話さないで一日が過ぎるのに耐えられず、必死に居場所を探すなか、ある日『こんな日が続くのはもういや！』と、子どもを投げつけそうになったんです。寸前にわれに返り、これはまずいと……」

4年になります」

そう話すのは、子育て支援情報の発信や、支援事業を実施するら、こまちぷらす」立ち上げへと至る。現在横浜市の子育て支援事業にも関与し、活動の場を広げている。